

格言：「申し訳ありません」は傲慢。

言葉の奥に潜む、私たちの『自負』について

「本人は、丁重に伝えているつもりだ」

「申し訳ございませんが、
本日は欠席させていただきます」

「社会人として正しいマナー」

「完璧なコミュニケーション」

「申し訳ございませんが、本日は欠席させていただきます」

しかし、受け取る側には「傲慢」に響くことがある。

「申し訳ございませんが、本日は欠席させていただきます」
傲慢

透けて見える「一つの前提」

「あなたは私に
来てほしいはずだ」

自分が来なくて残念だろう、
という隠れた思い込み。

私たちは、何に対して謝っているのか？



〔具体的な迷惑〕

- 約束を破ること
- 準備の手間をかけること

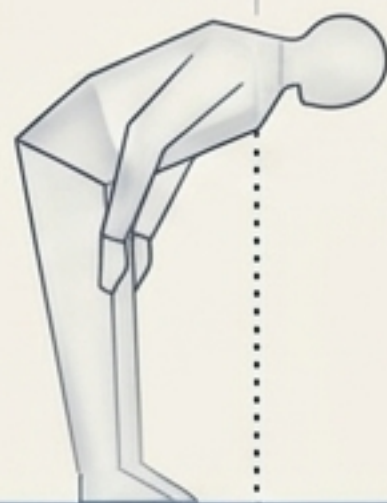


〔思い込み〕

- 「自分が来なくて残念だろう」という自負

具体的な迷惑への謝罪と、自分が望まれているという思い込みは、別物だ。

言葉の丁寧さと、心の立ち位置のねじれ



外見（言葉遣い）：下に出ている

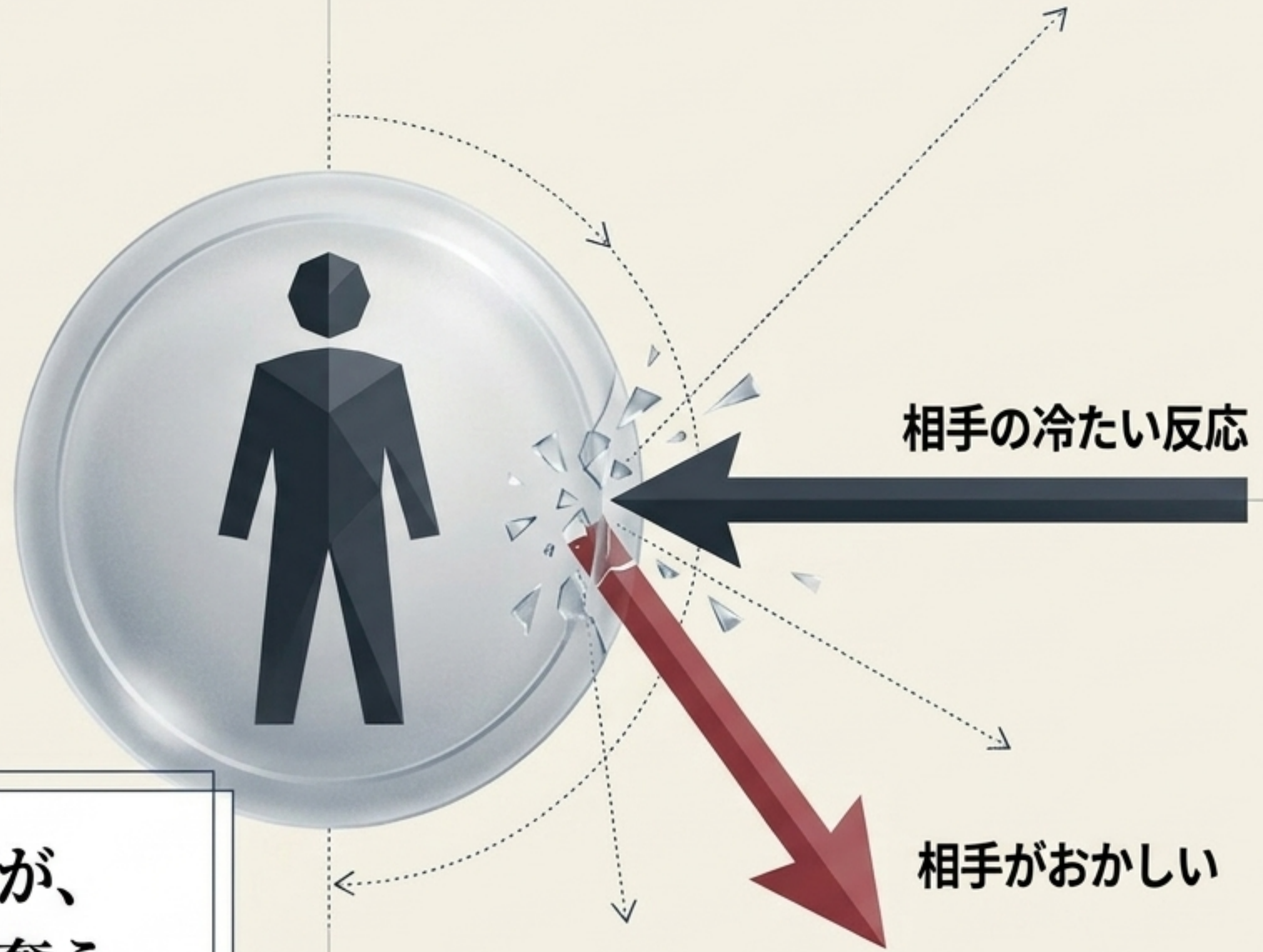
「敬語を使えば、
謙虚になれるわけではない。」



内面（無意識）：相手より上にいる

最も根深い問題： 礼儀という名の「鎧」

『自分は礼儀正しい』
という自己評価



丁寧に謝ったという事実が、
自分の前提を疑う機会を奪う。

なぜ、丁寧な人ほど自己省察の機会を失うのか。

[乱暴に言った自覚]

(相手の反応が悪い)

[言い方を振り返る (自己反省へ)]

[礼儀を尽くしたつもり]

(相手の反応が悪い)

「丁寧に謝ったのに！」
(相手への不満)

自分の思い込みは
手つかずのまま。

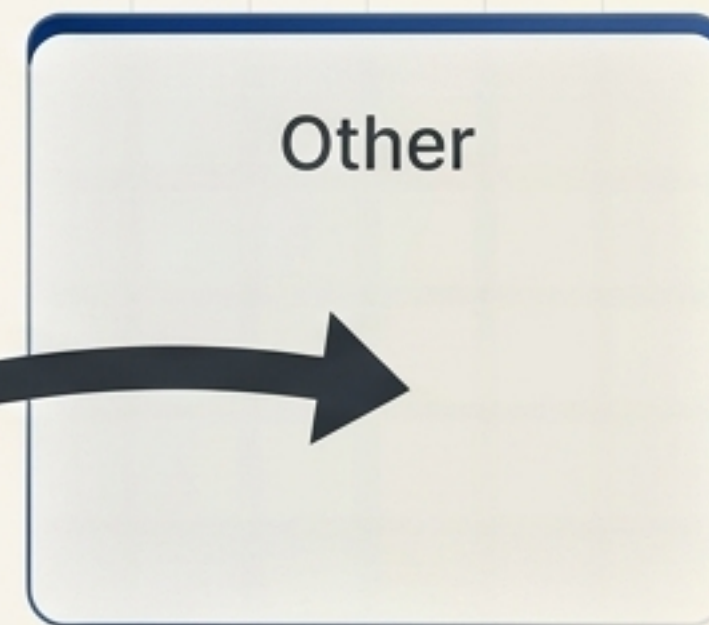
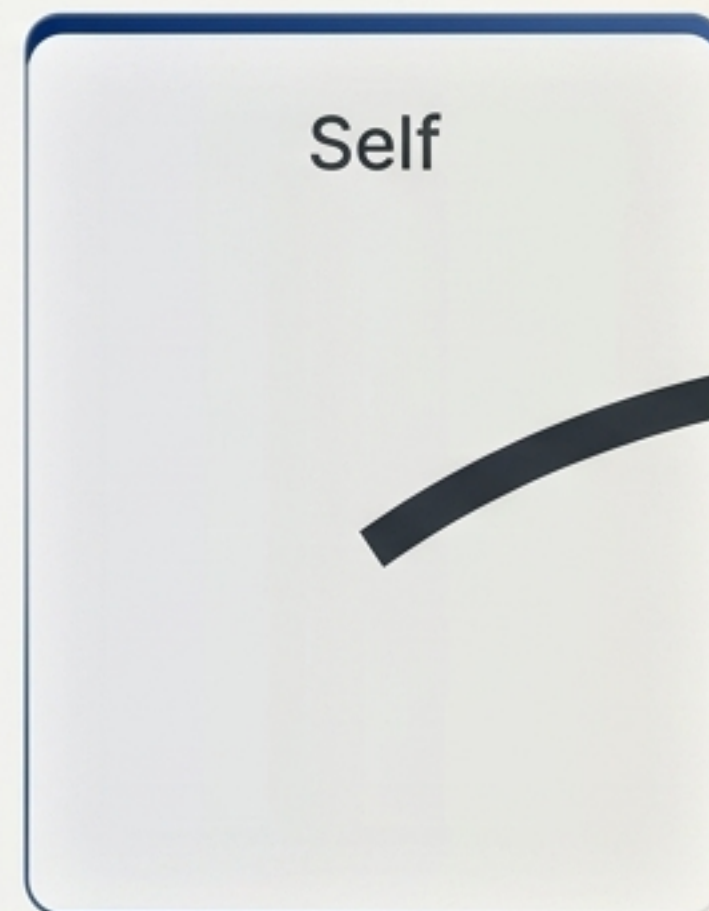
自分が思っているほど、
自分は求められていないかもしれない。

この可能性を引き受けるのは、痛い。

真の「相手への尊重」とは何か？



「私は丁寧に言った」で、
自分の誠実さを確定させる（自己完結）



相手が自分をどう思うか、
感情の決定権を相手に完全
に委ねる（他者尊重）

相手の気持ちを勝手に決めてはいけない。

言葉遣いと、マインドセットの違い

【重視するもの】
【トラブル時の思考】
【相手の感情】
【ゴール】

偽りの謙虚 / 綺麗な言葉	真の謙虚 / 自己への問い
作法	自分の立ち位置
相手がおかしい	自分の思い上がりを疑う
自分が規定する	相手に委ねる
誠実な自分を確定させる	相手を尊重する

問われるのは、言葉遣いよりも、
自分をどこに置いているか。



心の中の「高い位置」から降りる。

「形」と「覚悟」



頭を下げる『形』

すぐに覚えられる



位置を下ろす『覚悟』

痛みを伴う自己省察が要る

次に「申し訳ありません」と言う前に。

1

私は「具体的な迷惑」に対して謝っているか？

2

「自分が来なくて残念だろう」と、
心のどこかで思い込んでいないか？

3

「丁寧に言ったのだから」と、
自分の誠実さを自己完結させていないか？

きれいな言葉を使えること以上に、きれいな言葉
に隠れた自分の思い上がりを疑えることを。